



2021年12月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年11月12日

上場会社名 株式会社 フジオフードグループ本社
 コード番号 2752 URL <http://www.fujio-food.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ財務経理担当 (氏名) 仁田 英策

TEL 06-6360-0306

四半期報告書提出予定日 2021年11月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年12月期第3四半期の連結業績(2021年1月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年12月期第3四半期	18,168	6.6	2,923		1,656		944	
2020年12月期第3四半期	19,447	32.4	2,472		2,403		3,379	

(注) 包括利益 2021年12月期第3四半期 1,073百万円 (%) 2020年12月期第3四半期 3,378百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年12月期第3四半期	21.72	21.65
2020年12月期第3四半期	78.32	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年12月期第3四半期	28,405	5,399	18.9	122.64
2020年12月期	24,397	3,565	14.6	82.43

(参考) 自己資本 2021年12月期第3四半期 5,382百万円 2020年12月期 3,559百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年12月期		0.00		2.50	2.50
2021年12月期		0.00			
2021年12月期(予想)					

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無
 2021年12月期の配当につきましては、未定とさせていただきます。

3. 2021年12月期の連結業績予想(2021年1月1日～2021年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	27,073	1.0	2,734		1,906		802	18.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年12月期3Q	44,594,260 株	2020年12月期	44,584,660 株
期末自己株式数	2021年12月期3Q	703,474 株	2020年12月期	1,403,430 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年12月期3Q	43,483,229 株	2020年12月期3Q	43,149,329 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による消費の低迷に加え、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続する等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましても、緊急事態宣言等に伴う営業時間短縮やアルコール提供の中止等、極めて厳しい経営環境となりました。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」を中心として、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」をはじめとする全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。また、人々の生活様式の変化への対応においても、モバイルオーダー対応店舗の拡大や、お客様のニーズに合わせた商品開発を行う等、テイクアウト需要への取り込みに注力してまいりました。

新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、従業員とお客様の安全確保を第一に、従業員の個人衛生チェックの実施やマスク着用の徹底、正しい手洗いやアルコール消毒の徹底、レジ前や客席での飛沫感染防止対策やQRコード決済対応店舗の拡充に取り組みしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高181億68百万円（前年同期比6.6%減）、営業損失29億23百万円（前年同期は営業損失24億72百万円）、経常利益16億56百万円（前年同期は経常損失24億3百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益9億44百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失33億79百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」「神楽食堂 串家物語」「手作り居酒屋 かつぼうぎ」「つるまる」等の事業展開を行っております。

当事業におきましては、販売実績のABC分析から顧客ニーズを図りターゲットを狙った商品開発をするとともに、一部郊外型店舗では駐車場スペースを活用してテイクアウト需要を積極的に取り込みました。また、時間帯別売上分析による適切なシフトコントロールや居抜き物件を中心とした店舗開発の促進によってコスト削減を行うとともに、季節フェアキャンペーンの推進、既存店舗の美装改装等による集客力向上施策を実施し、全ブランドの既存店の業績改善に努めてまいりました。

店舗におけるサービス力向上を図るためのフジオアカデミーでは、ZOOM等の活用により受講しやすい環境を構築し、教育・研修体制の強化を行いました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は173億12百万円（前年同期比6.4%減）、セグメント損失は12億22百万円（前年同期はセグメント損失5億94百万円）となりました。

<FC事業>

FC事業につきましては、当社トレーナーが各加盟店に臨店して行う調理指導の他、店長会議、トレーナー会議等を通じて直営店における成功事例・問題点の共有を進めることにより更なる集客力の向上を図っております。

今後も加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらなる集客・売上の向上を目指してまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は8億56百万円（前年同期比9.4%減）、セグメント利益は4億89百万円（前年同期比23.1%減）となりました。

当社グループの2021年9月末時点の店舗数は805店舗（直営店（国内）514店舗、直営店（海外）5店舗、FC店（国内）282店舗、FC店（海外）4店舗）となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 （国内）	直営店 （海外）	FC店 （国内）	FC店 （海外）	合計
まいどおおきに食堂	128	4	209	1	342
神楽食堂 串家物語	80	-	27	-	107
手作り居酒屋 かっぼうぎ	18	-	4	-	22
つるまる	39	-	7	3	49
その他	249	1	35	-	285
合計	514	5	282	4	805

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は40億7百万円増加し、284億5百万円となりました。

資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末から58億5百万円増加し、固定資産が17億97百万円減少しております。流動資産が増加した主な理由は、資本性劣後ローン及び自己株式処分等の資金調達による現金及び預金の増加46億4百万円、その他に含まれる未収入金の増加19億51百万円によるものであります。固定資産が減少した主な理由は、有形固定資産の減少14億24百万円、敷金及び保証金の減少2億28百万円、繰延税金資産の減少1億65百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して21億73百万円増加し、230億5百万円となりました。これは主に資本性劣後ローンを含む借入れの実行による借入金の増加23億20百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び自己株式の処分等により、前連結会計年度末と比較して18億34百万円増加し、53億99百万円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月期の通期の業績予想につきましては、2021年8月12日に公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,425	7,030
売掛金	510	308
たな卸資産	150	130
前払費用	448	275
預け金	940	595
その他	445	2,386
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,920	10,726
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,239	16,814
減価償却累計額	△8,142	△8,384
減損損失累計額	△1,246	△1,121
建物及び構築物 (純額)	7,849	7,307
工具、器具及び備品	5,893	5,899
減価償却累計額	△4,897	△5,033
減損損失累計額	△300	△306
工具、器具及び備品 (純額)	695	559
土地	1,523	870
建設仮勘定	532	456
その他	395	398
減価償却累計額	△329	△349
その他 (純額)	66	49
有形固定資産合計	10,667	9,243
無形固定資産		
のれん	1,660	1,587
その他	69	68
無形固定資産合計	1,730	1,655
投資その他の資産		
投資有価証券	433	546
関係会社株式	275	255
繰延税金資産	1,423	1,258
敷金及び保証金	4,027	3,799
その他	976	1,012
貸倒引当金	△57	△92
投資その他の資産合計	7,078	6,779
固定資産合計	19,476	17,678
資産合計	24,397	28,405

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,174	922
未払金	1,180	1,003
未払費用	509	459
資産除去債務	33	27
賞与引当金	46	0
株主優待引当金	162	178
未払法人税等	19	661
未払消費税等	300	123
短期借入金	5,950	3,655
1年内返済予定の長期借入金	2,877	2,438
その他	197	244
流動負債合計	12,451	9,715
固定負債		
長期借入金	6,163	11,217
リース債務	51	34
資産除去債務	1,146	1,121
預り保証金	263	246
長期未払金	113	113
繰延税金負債	142	28
持分法適用に伴う負債	500	528
固定負債合計	8,380	13,290
負債合計	20,831	23,005
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,210	2,213
資本剰余金	2,092	2,509
利益剰余金	199	1,036
自己株式	△876	△439
株主資本合計	3,625	5,320
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△78	30
為替換算調整勘定	12	31
その他の包括利益累計額合計	△66	62
新株予約権	5	17
純資産合計	3,565	5,399
負債純資産合計	24,397	28,405

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
売上高	19,447	18,168
売上原価	7,202	6,724
売上総利益	12,244	11,444
販売費及び一般管理費	14,717	14,367
営業損失(△)	△2,472	△2,923
営業外収益		
受取利息	3	2
貸貸収入	20	10
施設利用料	10	-
雇用調整助成金	84	455
助成金収入	-	4,337
その他	47	49
営業外収益合計	166	4,855
営業外費用		
支払利息	42	67
持分法による投資損失	20	49
貸貸収入原価	16	7
支払手数料	-	136
その他	17	14
営業外費用合計	96	275
経常利益又は経常損失(△)	△2,403	1,656
特別利益		
固定資産売却益	-	83
新株予約権戻入益	0	-
助成金収入	-	196
受取立退料	-	62
その他	-	5
特別利益合計	0	347
特別損失		
店舗解約損	143	82
店舗休止損失	367	121
固定資産除却損	48	34
減損損失	680	169
投資有価証券評価損	584	-
子会社株式評価損	300	-
その他	7	36
特別損失合計	2,131	445
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△4,534	1,558
法人税等	△1,154	614
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,379	944
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△3,379	944

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△3,379	944
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	109
為替換算調整勘定	△6	18
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	1
その他の包括利益合計	0	129
四半期包括利益	△3,378	1,073
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△3,378	1,073

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年5月20日開催の取締役会決議に基づき、香港に所在する機関投資家であるLong Corridor Asset Management Limited (香港SFC 登録番号: BMW115) が一任契約の下に運用を行っている英国領ケイマン島に設立された免税有限責任会社 (Exempted Company in Cayman with Limited Liability) であるLong Corridor Alpha Opportunities Master Fund 及び英国領ケイマン島に設立された分離ポートフォリオ会社 (Segregated Portfolio Company) であるLMA SPC の分離ポートフォリオ (Segregated Portfolio) であるMAP246 Segregated Portfolio、並びに豊田産業株式会社を割当先とする第三者割当による自己株式700,000株の処分を行い自己株式が437百万円減少し、その他資本剰余金が414百万円増加しました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、その他資本剰余金は415百万円、自己株式は439百万円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

当社グループは、当第3四半期連結会計期間末の現状を考慮し、前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について見直しを行っております。

今後の売上高については、既存店売上2019年度と比較して第4四半期は概ね8割程度、次期以降についても引き続き緩やかな回復傾向が続くという仮定に基づき、固定資産の減損、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響は不確実性が高いため、上記仮定に変化が生じた場合には、当社グループの財政状態および経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

店舗休止損失

新型コロナウイルス感染症に対する政府や各自治体からの各種要請等を踏まえ、全国の一部店舗において休業を実施いたしました。

当該休業期間中に発生した固定費(人件費・地代家賃・減価償却費等)を店舗休止損失として、特別損失に計上しております。

助成金収入

新型コロナウイルス感染症に伴う政府及び自治体からの特例措置の適用を受けたものであります。

雇用調整助成金

新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を受けて、各事業所で休業期間に発生した人件費に対して申請した雇用調整助成金(新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例)を営業外収益に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年1月1日 至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,503	944	19,447	-	19,447
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	18,503	944	19,447	-	19,447
セグメント利益又は損失(△)	△594	636	42	△2,514	△2,472

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,514百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては680百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年1月1日 至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,312	856	18,168	-	18,168
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	17,312	856	18,168	-	18,168
セグメント利益又は損失(△)	△1,222	489	△733	△2,190	△2,923

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,190百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては169百万円であります。